

フランス 1995 年大統領選挙について

長谷川 憲

L'ÉLECTION PRÉSIDENTIELLE FRANÇAISE DE 1995

Ken HASEGAWA

はじめに

1995 年 4 月 23 日=5 月 7 日に実施されたフランス第五共和制の 7 回目の大統領選挙において、ジャック・シラク (Jacques CHIRAC) が、五人目の大統領に当選した。対立候補のリオネル・ジョスパン (Lionel JOSPIN) の得票率 47.37% に対して 52.63% の得票を得ての当選である⁽¹⁾。今回の選挙は、92 年の地域議会選挙に始まった一連の選挙の締めくくり的位置を占め、6 月に行われる市町村議会および首長選挙とともに、フランスおよびヨーロッパとりわけヨーロッパ連合 (EU) の 21 世紀に向けての政治動向を定める意味合いを持つと考えられた。その意味で今回の大統領選挙は、フランスの新しい指導者が、第五共和制の本来の意味での強力な権限をもった大統領として再登場するのか否かという意味で注目された⁽²⁾だけでなく、冷戦構造の終焉の後、国家の存在意義、すなわちその内部に存在する地域 (région) と外部に広げた EU という枠組みとの関係での存在意義が問われている時期の指導者の選択としても注目された⁽³⁾。この国家という領域は、内なるレジオンと外からの EU という異なる実質的な存在意義をもった枠組みとの関係でどのように存在意義を主張できるのであろうか⁽⁴⁾。そのような観点をもふまえ本稿では国家的枠組みを自ら体現する大統領を選出する今回の選挙に現された国民のメッセージを資料的に明らかにすることを目的としている。

註

- (1) 第一回投票 (4 月 23 日) および第二回投票 (5 月 7 日) の投票結果についての資料については 23 頁、24 頁および文末に掲載する。
- (2) ミッテランはその 14 年の大統領在職期間に、コアピタシオンを始めとして第五共和制に様々な政治的経験をもたらした。しかし、その政治性にもかかわらず、ミッテランは、その初期の一時期を除き議会内多数派を前提とする超然的かつ安定的な第五共和制の大統領としての地位を獲得することができなかった。このことは彼の政治性をますます発揮させることになるが、その最後の抵抗として、1 月 25 日には、放送メディアを監督する機関である CSA (Conseil supérieur de l'audiovisuel) の議長にブルジュ (Hervé BOURGES) を、また 2 月 22 日には、任期を終えるバダンテール (Robert BADINTER) の後任の憲法院院長に、デュマ (Roland DUMAS) を任命し、政治的影響力を自らの退任後にも残すことをもくろ

んだが、ドゴールが意図した如くの議会内多数派を背景にした強力な新大統領に対する牽制としてどのような効果があるのか興味のあるところである。

- (3) 当選したシラクは、旧ユーゴスラビア問題へ積極的姿勢を示すとともに、シェンゲン協定の実施と核実験の再開の問題で、すでに選挙中から危惧されたように、フランスの「威信」を発揚するような行動を開始している。冷戦構造の終焉が事実だとすれば、このような対応はいったいアナクロニズムなのか否かの点からも注目されるべきものである。
- (4) 地方分権化政策の実施による地方自治体と議会の権限強化、とりわけ旧くて新しいレジオンの領域の承認と EU の実質化はナショナルな領域を代表する大統領と国民議会に、その存在意義の再確認を結果として要求しているように思われる。このことが新大統領の上記の行動にも反映しているように思われる。

(一) 選挙の仕組みと結果

選挙の仕組みと選挙結果から確認してゆこう。

フランス共和国大統領選挙の基本的仕組み⁽¹⁾は、1962 年 11 月 6 日法⁽²⁾によって改正された 1958 年 10 月 4 日憲法第六条および第七条の規定の規定により確立された。憲法第六条は、大統領は直接普通選挙制度により 7 年の任期で選出すると規定する。さらに憲法第七条は、大統領は有効投票の絶対多数で選出することを定め、第一回投票で該当する候補者がいない場合は、二週間後の日曜日に第一回投票における上位二名の候補者により第二回投票を行い、これを決定すると規定する。大統領選挙は、空位の場合を除き、大統領の任期の満了以前 35 日ないし 20 日以内に行う。また憲法第五八条は、憲法院が大統領選挙の適法性を確保し、選挙の結果は、憲法院が最終的に確認し、大統領を決定するとする。

候補者となる条件は次のとおりである。

候補者は、1962 年 11 月 6 日法第三条で規定する 500 名の議員または首長の推薦を得る必要がある。この推薦は、選挙の告示日から第一回投票日の 19 日前の日の 24 時までの間に憲法院に提出しなければならない (1964 年デクレ 64-231 第二条および 1962 年 11 月 6 日法第三条の第二段落を改正する 1988 年 1 月 13 日組織法 88-35)。憲法院により審査された候補者名簿は、遅くとも第一回投票の 16 日前までに官報に公示される (1964 年デクレ 64-231 第六条第二項)。

今回の選挙に最終的に立候補したのは、共和国連合 (RPR) からは内務大臣のパスクワ (Charles PASQUA)、予算相のサルコジ (Nicolas SARKOZY) などの支持およびフランス民主連合 (UDF) から厚生大臣のヴェイユ (Simone VEIL)、国防大臣のレオタール (François LÉOTARD) などの支持をとりつけた首相のバラデュール (Edouard BALLADUR)、および共和国連合の総裁でパリ市長のシラク、社会党からは元文部大臣のジョスパン、共産党からは全国書記のユー (Robert HUE)、環境保護派からはヴェール (Verts) のヴォワネ (Dominique VOYNET)、極左からはトロツキスト政党 (Lutte ouvrière : LO) からクレディ・リヨネ銀行員のラグウィエ (Arlette LAGUILLER)、極右国民戦線のルペン (Jean-Marie LE PEN)、欧州統合反対論のドゥビリエ (Philippe DE VILLIERS) ならびに極右からシュミナード (Jacques CHEMINADE)、9 名であった。

第一回投票において過半数の得票を得る候補者がいない場合、憲法院は、遅くとも第一回投票の週の木曜日の 24 時までには第二回投票の候補者を定める（1964 年デクレ 64-231 第八条）。

公式の選挙運動は次の期間に行われる。

選挙運動期間は、候補者名簿の官報への掲載日より開始し、第一回投票日の前の金曜日の 24 時に終了する（1964 年デクレ 64-231 第九条第一項）。第二回投票が行われる場合、選挙運動期間は、候補者名簿の官報への掲載日より開始し、第二回投票日の前の金曜日の 24 時に終了する（1964 年デクレ 64-231 第九条第二項）。

今回の選挙では、第一回投票の選挙運動期間は 4 月 7 日から 4 月 21 日までの 15 日間であった。

有権者は、本国、海外領土および海外在住の 18 歳以上のフランス国民である⁽³⁾。

4 月 23 日に行われた第一回投票は、4 月 26 日に憲法院により審査され、翌 27 日の官報に掲載された。結果は表 1 のとおりで、登録有権者 39 992 912、総投票数 31 345 794、棄権 21.62%、白票および無効票 2.82%、有効投票数 30 462 633 であり、各候補者の得票は上位順に次のようであった。ジョスパン 7 097 786 : 23.30%、シラク 6 348 375 : 20.84%、バラデュール 5 658 796 : 18.58%、ルペン 4 570 838 : 15.00%、ユー 2 632 460 : 8.64%、ラグウィエ 1 615 552 : 5.30%、ドゥビリエ 1 443 186 : 4.74%、ヴォワネ 1 010 681 : 3.32%、シュミナード 84 959 : 0.28% であった⁽⁴⁾。

第一回投票の結果、上位得票を得たジョスパンおよびシラクが第二回投票の候補者とされた。

表 1

LES RÉSULTATS DU PREMIER TOUR

Candidats	MÉTROPOLE Inscrits : 38 556 706 Votants : 30 622 922 (79,42 %) Exprimés : 29 772 189 % B & N : 2,78 %			DOM TOM Inscrits : 1 190 884 Votants : 598 072 (50,22 %) Exprimés : 566 849 % B & N : 5,22 %			NATIONALE Inscrits : 39 992 912 Votants : 31 345 794 % (78,38 %) Exprimés : 30 462 633 % B & N : 2,82 %		
	Nombre de voix	% exp.	% insc.	Nombre de voix	% exp.	% insc.	Nombre de voix	% exp.	% insc.
Jospin L.	6 909 222	23,21	17,92	155 865	27,50	13,09	7 097 786	23,30	17,75
Chirac J.	6 093 984	20,47	15,81	213 017	37,58	17,89	6 348 375	20,84	15,87
Balladur E.	5 519 845	18,54	14,32	109 324	19,29	9,18	5 658 796	18,58	14,15
Le Pen J.-M.	4 545 193	15,27	11,79	19 257	3,40	1,62	4 570 838	15,00	11,43
Hue R.	2 598 244	8,73	6,74	32 094	5,66	2,69	2 632 460	8,64	6,58
Laguiller A.	1 599 868	5,37	4,15	12 760	2,25	1,07	1 615 552	5,30	4,04
De Villiers P.	1 430 462	4,80	3,71	9 999	1,76	0,84	1 443 186	4,74	3,61
Voinet D.	996 010	3,35	2,58	9 482	1,67	0,80	1 010 681	3,32	2,53
Cheminaud J.	79 361	0,27	0,21	5 051	0,89	0,42	84 959	0,28	0,21

第二回投票への選挙運動期間は、4 月 28 日より 5 月 5 日の 24 時までとされた。5 月 7 日に行われた第二回投票の結果は表 2 のとおりであった⁽⁵⁾。

表 2 LES RÉSULTATS DU SECOND TOUR (selon nos calculs)

	MÉTROPOLE		OUTRE-MER		TOTAL	
Inscrits	38 548 618		1 191 990		39 985 925	
Votants	31 035 026		687 637		31 852 695	
Abstentions	19,49 %		42,31 %		20,34 %	
Blancs ou nuls	6,01 %		4,06 %		5,95 %	
Exprimés	29 170 604		659 686		29 957 677	

CANDIDATS	Nombre de voix obtenues	Suffr. expr. (%)	Nombre de voix obtenues	Suffr. expr. (%)	Nombre de voix obtenues	Suffr. expr. (%)
Jacques Chirac	15 367 078	52,68	324 984	49,26	15 766 658	52,63
Lionel Jospin	13 803 526	47,32	334 702	50,74	14 191 019	47,37

選挙の詳細については、1962 年 11 月 6 日法第三条およびその実施のための 1964 年 3 月 14 日デクレに規定される。

註

- (1) 大統領選挙に関連する基本的法規は次のものである。

(一) 1958 年 10 月 4 日憲法第六条、第七条および第五八条（第六条および第七条の規定は 1962 年 11 月 6 日法（(Loi n° 62-1292 du 6 novembre 1962.)) 第一条および第二条によって改正された。この法により 1958 年憲法で当初間接選挙により選出されることになっていた大統領が直接普通選挙で選出されることとなった。)

(二) 1958 年 11 月 7 日オルドナンス（Ordonnance n° 58-1067 du 7 novembre 1958）第五章第三〇条および三一条（選挙に関する憲法院の関与規定）。

(三) 1962 年 11 月 6 日法（Loi n° 62-1292 du 6 novembre 1962）第三条（直接普通選挙実施に関する規定）。

(四) 1964 年 3 月 14 日デクレ（Decret n° 64-231 du 14 mars 1964）第一条ないし第二九条（(三) 法の実施規定）。

(五) 1976 年 1 月 31 日組織法（Loi organique n° 76-97 du 31 janvier 1976）第一条ないし第二〇条（海外投票に関する規定）。

(六) 1976 年 10 月 14 日デクレ（Decret n° 76-950 du 14 octobre 1976）第一条ないし第四六条（海外投票に関する 1976 年 1 月 31 日組織法実施規定）。

- (2) 1962 年 11 月 6 日法は、第一条および第二条で憲法第六条および第七条を改正するとともに、第三条以下で次のように大統領選挙の詳細を定めた。

大統領選挙の第一回投票の少なくとも 15 日前に候補者名簿を確定する（第三条第一項）。この規定は、1988 年組織法でさらに次のように補足された。「この名簿は、第一回投票の少なくとも 18 日前までに、」(1988 年 1 月 13 日組織法 88-35 (Loi organique n° 88-35 du 13 janvier 1988) : 以下組織法 88-35 と略す)「上院、国民議会、地域議会、県議会、パリ市会および海外領土議会の構成員」（組織法 88-35）ならびに「市町村長または在外フランス人高等評議会選出構成員」（1988 年 1 月 13 日組織法 88-36 (Loi organique n° 88-36 du 13 janvier 1988) : 以下組織法 88-36 と略す)「の市民の少なくとも 500 名による推薦を審査した上で、憲法院により事前に作成される」（組織法 88-36）。「立候補出願は、推薦の署名者のなかに、10 名以上の同一の県または海外領土の選出者を含むことなくかつ少なくとも 30 の県または海外領土の選出者を掲載することで満たされなければならない」（組織法 88-36）。「前段落の規定の適用について、本国以外のフランス人を代表する上院議員および在外フランス人高等評議会選出構成員は同一の県または海外領土の選出者と見なされる」（組織法 88-36）。

「憲法院は、推薦人の同意を確認しなければならない。立候補の無効原因（取消）がなく、封印文書で、選挙法第 L.O. 135-1 条の規定に従った資産状況の申告、および選挙の場合、任期満了の早くとも二月前

より遅くとも一月前までに、または辞職の場合、辞職後一月の期間内に、前記規定に従った新たな申告」(1988 年 3 月 11 日組織法 88-226 (Loi organique n° 88-226 du 11 mars 1988)) がなければならない。

「名簿に記載される候補者が提示した氏名および肩書は、立候補の有効性に必要な限度で第一回投票の少なくとも 8 日前憲法院によって公表される」(1976 年 6 月 18 日組織法 76-528 (Loi organique n° 76-528 du 18 juin 1976))。

- (3) 1974 年 7 月 5 日法 (Loi n° 74-631 du juillet 1974) により 18 歳以上のフランス国民に選挙権が認められた。今日ではさらに 16 歳までの年齢引き下げが問題とされている。また現在日本でも実現が望まれている海外在住者の投票については、1976 年 1 月 31 日組織法 (Loi organique n° 76-97 du 31 janvier 1976) による。
- (4) Le Monde “L'ÉLECTION PRÉSIDENTIELLE DE 1995” (1995 年 5 月) 36 頁掲載の集計による (以下ルモンド大統領特集号と略す)。
- (5) ルモンド大統領選挙号 62 頁の集計による。

(二) 選挙前史

今回の選挙の注目点は、いくつかあるが、人の面ではミッテラン後に向けて、左翼側が誰を中心の指導者としてゆくのか、また中道と右翼との間での主導権はどのようにになるのか、そして候補者選定に向けて、左右両陣営がどのように態勢を整えてゆくのかであった。先ず最初に頭角を現したのは 1988 年の大統領選挙の後、社会党政権の首相となったロカール (Michel ROCARD) であった。ロカールは首相としての実績をもとに社会党内部での地歩を固め、国民議会総選挙で自らの議席を失うにもかかわらず、ファビウス (Laurent FABUS) に代わり社会党の党首となるが、94 年の欧州議会選挙において左翼の統一を確保することができず敗退することにより社会党内部での地位も失うことになる。その後社会党および大統領支持多数派の側の候補者は、ドゥロール (Jacques DELORS) にしばらくこまれたように見え、また各種世論調査からみても左翼の側の勝利を予測させるものであったが、ドゥロールは 94 年 12 月にいたり、議会内多数派を確保することの難しさからくる当選後の自己の政策実現の困難さと年齢的要因とを理由に立候補を辞退することになる。この時点で社会党は 2 月初旬の党大会で最終的候補者を選定する旨決定するが勝利への展望を失うことになる。

右翼の側では、88 年選挙での敗北後の党内危機を克服した後、シラクが一貫して大統領選挙を目指す、その好戦的なイメージを克服し、中道勢力の支持を取り付けるとともに、国民戦線の勢力拡大傾向に対してどのように右側への支持拡大を行うかが課題とされた。状況に変化を与えたのは、93 年国民議会選挙における右翼・中道による大勝利であった⁽¹⁾。ミッテランは、二度目のコアビタシオンの開始を選択せざるを得ず、その相手としてシラクの忠実な腹心であるバラデュールを首相として選んだことから混迷は始まる。シラクの戦略としては、前回のコアビタシオンの失敗を繰り返すことなく、ミッテランとの対決はバラデュールに任せ、右翼の側に有利な政治状況の下で、大統領選挙の準備に専念するところにあったと言えよう。しかしバラデュール内閣が一定の成果をあげたこととともに、バラデュール自身の性格からもミッテランその他との間での確執を生じさせなかったことが逆に別の方向を生み出すこととなった。すなわちバラデュール自身の大統領候補への道である。現実に世論調査からも、シラクに

対するバラデュールの優位が語られるようになり、ヴェィユ厚生大臣、レオタール国防大臣といった中道勢力は、バラデュールを大統領候補として認知するとともに、RPR 内部からも、シラクの刎頸の友ともいべきバスクワ内務大臣が呼応するまでとなった。シラクにとっての最大の危機であったといえよう。この傾向は 95 年に入り、世論調査の傾向が逆転するまで続き、ついには RPR からの二人の立候補という事態を引き起こしたのである。

社会党は、ドゥローロールという切り札を失った後、候補者選びの過程で混迷を深める。ミッテランとは一定の距離を示すことで立候補決意を行ったジョスパンが先ず名乗りをあげるが党内確執のもとでエマニュエリ (Henri EMMANUELLI)、ラング (Jack LANG) などが対立候補となる。その背景には、ミッテラン以後をめぐる党内主導権争いが複雑に係わってくるが、2 月 4 日に行われた党大会で党員投票の三分の二の支持を集めたジョスパンが対立候補のエマニュエリに大差をつけ正式の社会党候補者に選定されるとともに、社会党内部は党員の投票動向を背景に一応のまとまりをつけることになる。またドゥローロール、元労働大臣のオーブリがジョスパンの選挙運動事務局を構成することにより、左翼急進運動、環境保護派、そして中道勢力の支持をどこまで取り付けることができるのか、さらに事実上無名のジョスパンがシラク、バラデュールとの対決のなかで第二回投票に勝ち残れるのかが焦点とされた。

混迷という意味では RPR および UDF の側でも同様であった。すでに述べたように、バラデュールは、UDF 出身の閣僚の支持をとりつけ立候補にむけての準備を進めるが、UDF 内部においても、ジスカール・デスタン (Valéry GISCARD D'ESTAING)、バルル (Reymond BARRE) の立候補の可能性、すなわち RPR と UDF との間でのミッテラン後の主導権争いがバラデュールを挟み複雑に展開する。いずれにせよ 95 年に入るまでは、世論調査ではシラクに対するバラデュールの優位は絶対的なように見えた。これが変化するのは、失業、貧困問題が深刻化するなかで富裕者の資産に対する批判が、とりわけバラデュールの人間性と結び付けられて批判されるようになったことである。「金持ちであること」は「違法ではない」が「不道德である」かのようなムードが蔓延することになる。ジスカール・デスタンが立候補を断念したのもこのムードが背景にあるように思われるぐらい、失業・貧困問題の深刻化が別のムードを呼び起こしたことは今回の大統領選挙における特異な現象と思われる。しかもその批判の矢面に晒されたのが何故かバラデュールであったのである。さらにバラデュール内閣閣僚の汚職問題、さらにバスクワ内務大臣にかかわる盗聴事件が発覚するにあたり、バラデュールの人気は凋落する。バラデュール人気が去ると、党組織を押さえ、組織的選挙活動を継続してきたシラクの評価が上がり始めた。同時にバラデュール内閣の失業・貧困対策に対抗して、シラクもまた SDF (sans domicile fixe : 住所不定) 問題で空き家占拠事件が起きた際、ドゥゴール時代の古い政令を援用し、一時的占有を認めるなど、社会福祉政策に重点を置く姿勢を示していたことが、バラデュールとは異なりシラクを「changement (変化)」の担い手としてのイメージに結びつけたことも有利な状況となった。

註

- (1) 選挙結果については、拙稿「フランス国民議会 1993 年総選挙とコアビタシオン」(工学院大学共通課程研究論叢 31 号, 1993 年) 参照のこと。

(三) 選挙結果

第一回投票は驚きの結果となった。第一点はジョスピンの首位に関してである。最終世論調査では第一位のシラクの約 27% に引き離され、バラデュールとともに 20% 程度を争い、第二回投票への進出を疑われていたからである。第二点は、伝統的左右両極以外の候補者が 30% 近い得票を得たことである。争点の多様化ととらえるべきか、支持基盤の分解現象ととらえるべきか新たな政治動向のはじまりととらえるべきか、冷戦構造の終焉後の一般的傾向ととらえるべきか、それとも終焉後の混乱期における一時的現象ととらえるべきなのかが今後の問題となる。ともかく社会党は第二回投票への候補を確保することにより、左翼陣営再結集への手掛かりを得たのである。

第二回投票での焦点は、優位に立つとされたシラクが第一回投票までの選挙運動において生じた中道・右翼陣営における亀裂を修復し、かつ国民戦線に流れた票を呼び戻すことができるかという点であり、ジョスピンの側では第一回投票でつくりあげた上昇ムードを継続することができるかにあったこれらの点をも考慮しながらルペン支持者の投票動向との関連で第二回投票の選挙結果を分析してみよう⁽¹⁾。

シラクの得票からみてゆこう。シラクは第二回投票で有効投票の 52.64% を集めたが、第一回投票における右翼の側の総得票の 59.16% には約 6.5% およばなかった。シラクは、ルペンが第一回投票で得た 15% の半分近くを得ることはできなかったともいえるのである。詳細を少しくみよう。シラクの得票には、典型的には二つのタイプがみられる。第一は裕福な市町村 (communes bourgeoises) の場合である。例えばオート・ドゥ・セーヌ (Hauts-de-Seine) 県のヌイイ・スュール・セーヌ (Neuilly-sur-Seine)⁽²⁾ では、シラクは第二回投票で 85.89% を集めた。第一回投票での極右を含めた右翼の得票は 85.95% (ルペン 7.68%) である。第二のタイプは、同県の共産党市政の町のジュヌビリエ (Gennevilliers) の例である。ここでは、右翼の総得票が 42.56% であるのに対して、シラクは 35.37% を集めたにすぎない。従ってルペンの得票率 17.23% の約四割を減じたとも考えられるのである。同様の例は、ロワレ (Loir-et) 県でもみられる。裕福な住宅地であるオリベ (Olivet) では、右翼の総得票 63.01% (ルペン 9.79%) に対して 61.46% を得ているが、共産党市政のシャレット・スュール・ロワン (Châlette-sur-Loing) では、右翼の総得票 53.73% に対して 44.06% と、ルペンの得票率 21.53% の約半分を減じている。同様に、ブッシュ・ドゥ・ローヌ (Bouches-du-Rhône) 県のマルセイユ第 4 選挙区では、右翼の総得票 67.77% (ルペンの得票率は 16.68%) に対して 65.85% と約 2 ポイント減じているにすぎないのに対し、マルセイユ第 8 選挙区では、右翼の総得票 52.12% に対して 41.27% と約 11 ポイント減じている。この選挙区のルペンの得票率

は27.52%である。同一の県内においても、伝統的な右翼の支持地域と国民戦線が急速にのびた選挙区との間での集票率の違いという特徴が生じている点に注目する必要がある。

国民戦線支持者の動向は、地域 (region) によっても偏差があった。二つの傾向がみられた。地中海地方の伝統的に国民戦線の強い地域においては、シラクは比較的上手く票を集めた。例えば、ピレネ・オリエンタル (Pyrénées-Orientales) 県のカネ・ルスィロン (Canet-Roussillon) では、右翼の総得票71.10% (このうちルペンの得票は24.48%である) に対して65.63%の得票、すなわち約5ポイント減、ガール (Gard) 県のサン・ジル (Saint-Gilles) では、右翼の総得票69.78% (このうちルペンの得票は35.91%に達する) に対して58.93%の得票、すなわち約11ポイント減、またヴオークルーズ (Vaucluse) 県のソルグ (Sorgues) では、右翼の総得票65.82% (このうちルペンの得票は34.05%を占めている) に対して55.06%の得票、すなわち約11ポイント減など、比較的ルペン票を吸収している。しかし国民戦線の支持率が急速に増えた地域においては、逆にルペンの票はジョスパンに流れたようである。例えば、オート・ラン (Haut-Rhin) 県のヴィテルハイム (Wittelsheim) では、右翼の総得票は64.74% (ルペンの得票は37.13%) であり、左翼票は35.26% (ジョスパンの得票は19.45%) であるにもかかわらず、第二回投票でジョスパンは22ポイント増の57.72%の得票を得ている。オート・マルヌ (Haute-Marne) 県のサン・ディズィエ (Saint-Dizier) では、右翼の総得票は64.42% (ルペンの得票は29.46%) であり、左翼票は35.57% (ジョスパンの得票は17.56%) であるにもかかわらず、第二回投票でジョスパンは13ポイント増の48.19%の得票を得ている。このような傾向は国民戦線の支持が急速に伸びた東部において顕著である。モーゼル (Moselle) 県のスティラン・ヴァンデル (Stiring-Wendel) では、第一回投票で左翼は34.31%の得票であったにもかかわらず、第二回投票でジョスパンは53.26%を集めた。ルペンの得票29.95%の三分の二を吸収したとも考えられる。ムーズ (Meuse) 県のコメルスイ (Commercy) でも左翼は44.31%から52.57%へ増加している。ルペンの得票は16.66%であった。このように88年から95年にかけて国民戦線の支持者が拡大した地域において、第二回投票における左翼回帰の現象がみられた。

二回の投票の間での白票および無効票の比率の相違をみると、対有権者比で2.14%から4.73%へ、対投票者比で2.74%から5.96%へと約二倍の開きが生じたことが判る。この傾向は、ルペン支持者の比率の高いアルザス、ロレーヌ、および地中海沿岸地方で特にみられることが判る。

棄権をした者についての調査をみた場合、国民戦線の影響力が強まった地域において、第一回投票でルペンを支持した者が棄権する傾向をみせた。

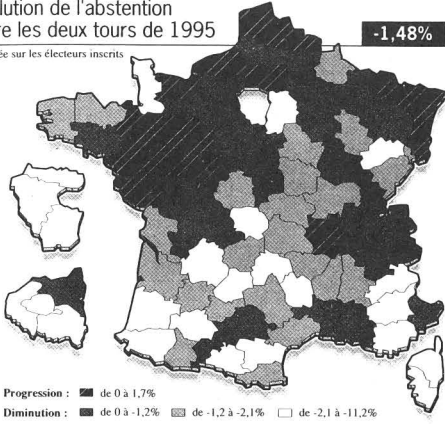
このように、第一回投票において15%の支持を集めたルペンの支持者は、第二回投票において、必ずしも右翼＝シラクに有利に投票する傾向をみせなかった。その原因は、シラクに対する警告的牽制の意味と考えることも可能であるが、現時点においてはむしろルペン支持者が必ずしも安定的な行動形態・思想傾向を形成していないことに原因があると思われる⁽³⁾。

地図 1

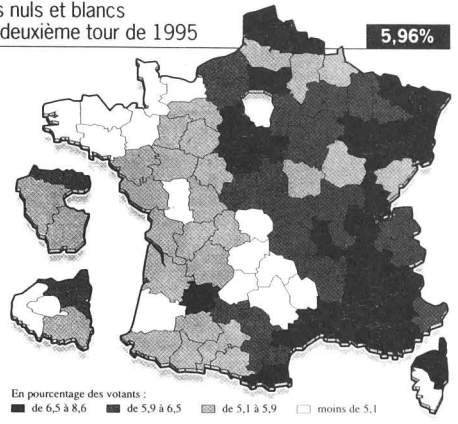
MERCREDI 10 MAI 1995 16
POLITIQUE

Evolution de l'abstention
entre les deux tours de 1995

Calculée sur les électeurs inscrits

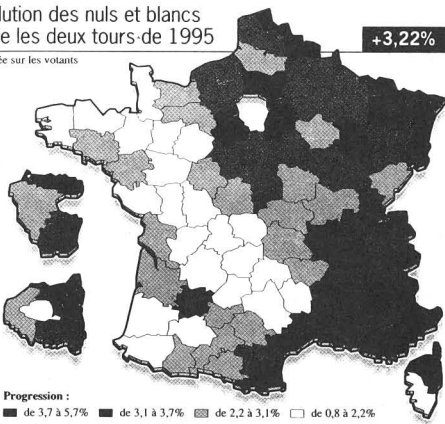


Les nuls et blancs
au deuxième tour de 1995

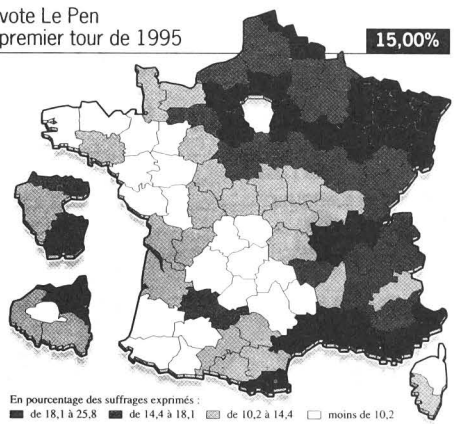


Evolution des nuls et blancs
entre les deux tours de 1995

Calculée sur les votants



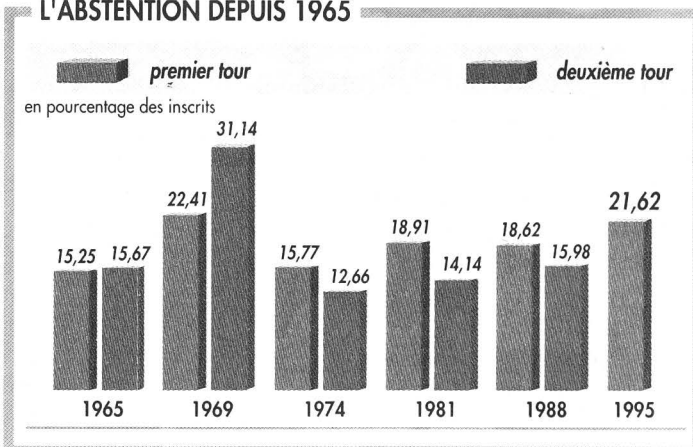
Le vote Le Pen
au premier tour de 1995



出典：リベレーション紙 1995 年 5 月 10 日号 16 頁

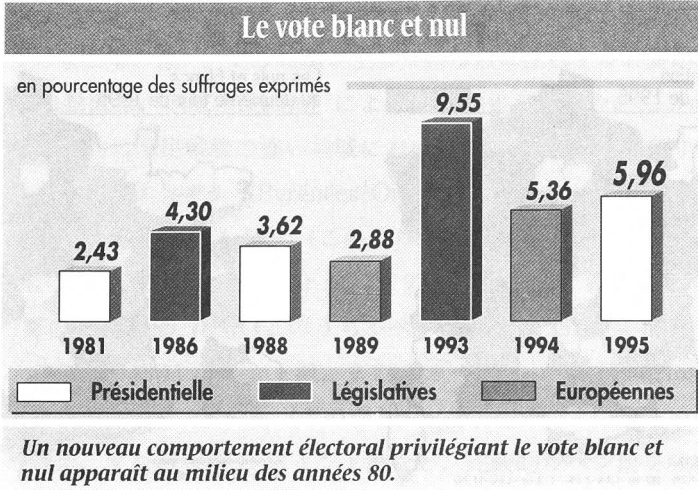
図 1

L'ABSTENTION DEPUIS 1965



出典：ルモンド大統領選挙特集号 39 頁

図 2



出典：ルモンド大統領選挙特集号 62 頁

地図 2

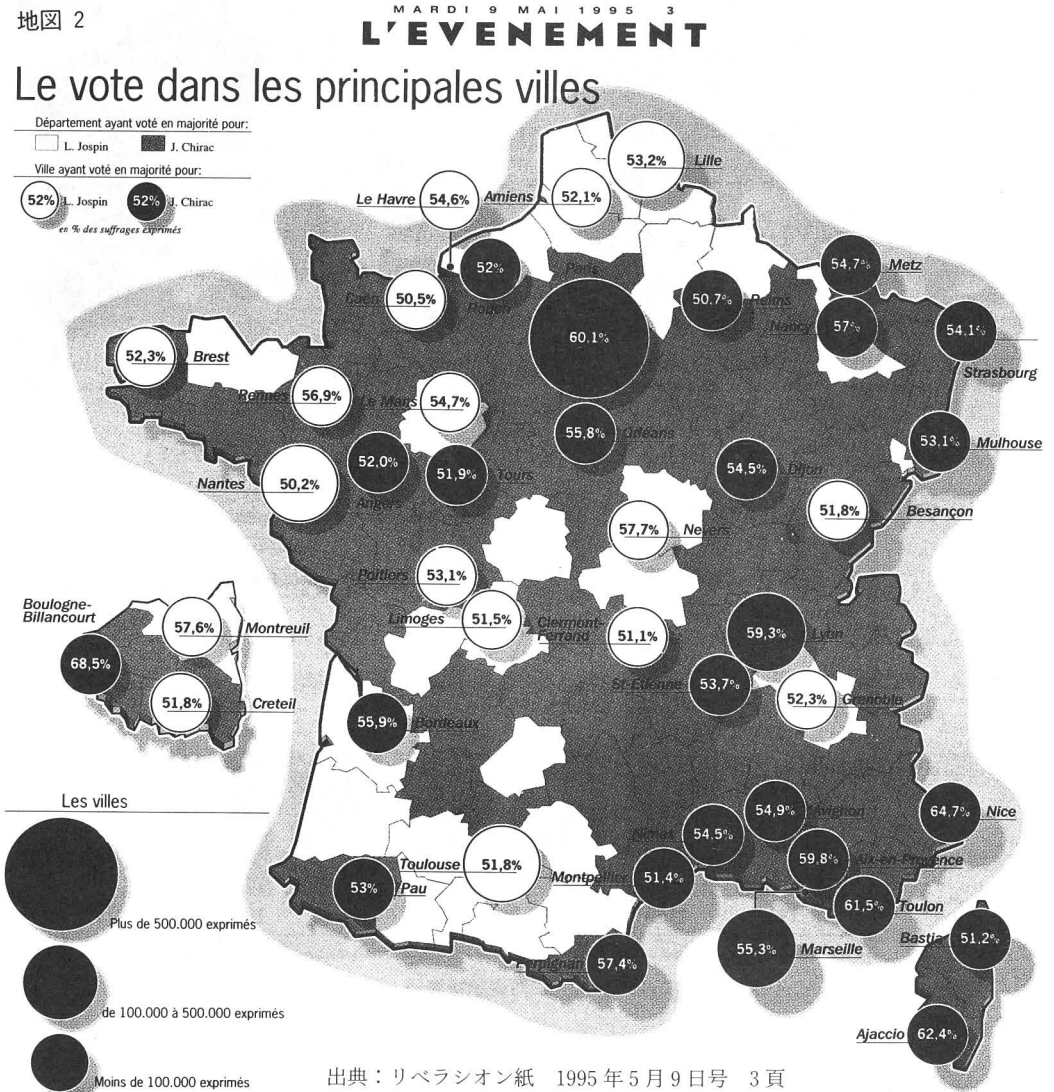


表 3-1

シラク氏が多数を
獲得した左翼統治
都市

Villes détenues par la gauche où M. Chirac est majoritaire

BOUCHES-DU RHÔNE :	BAS-RHIN : Strasbourg (PS)
Aix-en-Provence (PS), Aubagne	HAUT-RHIN : Mulhouse (PS)
(PC), Vitrolles (PS)	RHÔNE : Bron (PS), Saint-Priest
CANTAL : Aurillac (PS)	(PS), Villeurbanne (PS)
CHER : Bourges (PC)	SAÔNE-ET-LOIRE : Mâcon (PS)
DIJÔME : Valence (PS),	SAVOIE : Chambéry (PS)
Romans-sur-Isère (PS)	SEINE-ET-MARNE : Meaux (PS)
EURE : Evreux (PC)	YVELINES : Mantes-la-Jolie (PS)
EURE-ET-LOIRE : Chartres (div. g.)	TARN-ET-GARONNE : Montauban
HÉHAULT : Béziers (PS),	(PS)
Montpellier (PS)	VAUCLUSE : Avignon (PS)
LOIRET : Orléans (PS)	ESSONNE :
MAINE-ET-LOIRE : Angers (div. g.)	Sainte-Geneviève-des-Bois (div. g.)
MARNE : Châlons-sur-Marne (PC)	HAUTS-DE-SEINE : Colombes (PC)
HAUTE-MARNE : Saint-Dizier (PS)	SEINE-SAINT-DENIS :
MOSELLE : Thionville (PC)	Livry-Gargan (PS)
NORD : Dunkerque (PS)	VAL-DE-MARNE :
PYRÉNÉES-ATLANTIQUES : Pau	Fontenay-sous-Bois (PC)
(PS)	

表 3-2

ジョスパン氏が多
数を獲得した右翼
統治都市

Villes détenues par la droite où M. Jospin est majoritaire

AUDE : Narbonne (div. d.)	INDRE-ET-LOIRE :
BOUCHES-DU-RHÔNE : Arles	Joué-les-Tours (UDF)
(RPR)	ISÈRE : Grenoble (RPR)
CALVADOS : Caen (UDF)	NORD : Roubaix (UDF)
CHARENTE : Angoulême (UDF)	PAS-DE-CALAIS :
HAUTE-GARONNE : Toulouse	Boulogne-sur-Mer (div. d.)
(UDF)	SOMME : Amiens (UDF)
GIRONDE : Talence (UDF)	TARN : Castres (RPR)
	VAL-D'OISE : Sarcelles (RPR)

表 3-3

右翼および極右が
第 1 回投票で多数
を獲得し、第 2 回
投票でジョスパン
氏が多数となった
都市

Villes où droite + extrême droite étaient majoritaires au premier tour et où M. Jospin gagne au second

Dans les communes désignées par le signe ♦, M. Le Pen a obtenu plus de 10 % des suffrages exprimés au premier tour. Dans ces villes, une liste du Front national qui obtiendrait, au premier tour des élections municipales, le même score que M. Le Pen pourrait se maintenir au second et provoquer une triangulaire.	
AISNE : Saint-Quentin (PC) ♦	LILLE (PS), Tourcoing (PS) ♦
ARDENNES : Charleville-Mézières	MAUBEUGE (PS) ♦
(PS) ♦	OISE : Creil (PS) ♦; Beauvais (PS) ♦
AUDE : Narbonne (div. d.) ♦	PAS-DE-CALAIS : Lens (PS) ♦
BOUCHES-DU-RHÔNE :	Calais (PC) ♦, Boulogne-sur-Mer
Marignac (PC) ♦, Istres (PS) ♦,	(div. d.) ♦, Arras (PS) ♦
Arles (RPR) ♦	HAUTES-PYRÉNÉES : Tarbes
CALVADOS : Caen (UDF)	(PC) ♦
CHARENTE : Angoulême (UDF) ♦	SEINE-MARITIME : Dieppe
CHARENTE-MARITIME : La	(PC) ♦
Rochelle (Rad.)	DEUX-SÈVRES : Niort (PS)
CÔTES-D'ARMOR : Saint-Brieuc	TARN : Castres (RPR) ♦, Albi
(PS)	(PS) ♦
GARD : Alès (div. g.) ♦	VENDEE : La Roche-sur-Yon (PS)
GIRONDE : Pessac (PS) ♦	VIENNE : Poitiers (PS),
Mérignac (PS) ♦, Talence (UDF)	Châtelleraut (PS) ♦
INDRE : Châteauroux (PS) ♦	YVELINES : Les Mureaux (PS) ♦
INDRE-ET-LOIRE : Joué-les-Tours	Confians-Sainte-Honorine (PS) ♦
(UDF) ♦	TERRITOIRE-DE-BELFORT :
LOIR-ET-CHER : Blois (PS) ♦	Belfort (MDC) ♦
LOIRE : Roanne (PS) ♦	ESSONNE : Evry (PS) ♦,
MAYENNE : Laval (PS)	Corbeil-Essonnes (PC) ♦
MEURTHE-ET-MOSELLE :	HAUTS-DE-SEINE : Clichy (PS) ♦
Vandœuvre-lès-Nancy (PS) ♦	SEINE-SAINT-DENIS : Drancy
MORBIHAN : Lorient (PS) ♦	(PC) ♦, Bondy (PS) ♦,
NORD : Wattrelos (PS) ♦, Roubaix	Neuilly-sur-Marne (PS) ♦, Pantin
(UDF) ♦, Villeneuve-d'Ascq (PS) ♦,	(PC) ♦, Nolsy-le Sec (PC) ♦, Le
	Blanc-Mesnil (PC) ♦,
	Tremblay-en-France (PC) ♦, Sevrin
	(PC) ♦, Epinay-sur-Seine (PS) ♦
	VAL-DE-MARNE : Créteil (PS) ♦,
	Champligny-sur-Marne (PC) ♦,
	Cloisly-le-Roi (PC) ♦
	VAL-D'OISE : Sarcelles (RPR) ♦,
	Cergy (PS) ♦, Garges-lès-Gonesse
	(PC) ♦

Francis Gouge
et Pascale Sauvage

出典：ルモンド大統領選挙特集号 125 頁

註

- (1) Libération du mercredi 10 mai 1995, pp. 16-17. 参照
- (2) ここで用いた得票率は、ルモンド大統領選挙特集号 80~123 頁による。
- (3) ジョスパンが過半数を獲得した都市にはルペンが 10% 以上の票を得た都市が多数含まれていることから今回のルペン派の行動の特色の一端を見ることができる。前掲地図 2 および表 3-3 を参照せよ。

(四) 出口調査に現れた投票動向

大統領選挙当日投票所の出口で行った、l'Ifop の世論調査を手掛かりに第二回投票における有権者の動向をみよう⁽¹⁾。

出口調査の結果を見る前に注目すべき点は、今回の選挙における白票および無効票の多さである。そのため第五共和制の歴史で始めて、投票者の過半数を得ることなく、すなわち49.51%の得票率で大統領が誕生することとなった。

有効投票におけるシラクの得票の一般的傾向からみよう。男女別では、女性の支持率が2%低いものの全体としては両有権者の過半数の支持を得た。年齢別では、35-49歳を除き、すべての年齢層で過半数の支持を得ている。また職業別では、労働者 (ouvrier)、事務職 (employé) および教員 (enseignant) を除き、学生 (étudiant)、中級管理職・技術者 (cadre moyen, technicien)、高級管理職 (cadre supérieur)、不就労 (inactif) のすべての領域において、とりわけ企業家・工場主 (industriel, chef d'entreprise)、商人・職人 (commerçant, artisan)、自由業 (profession libérale)、農業経営者 (agriculteur exploitant) において高い支持率を示した。さらに階層別では、庶民階層 (les classes populaires) および困窮層 (les défavorisés) を除き、それ以外の階層の過半数の支持を得ている (資料 A-1)。

第一回投票で他候補へ投票した有権者の第二回投票における候補者への投票の動機をみよう。67%のルペン派、52%のパラデュール派、48%のドゥビリエ派はシラクに、58%のユー派、52%のラギュイエ派および57%のヴォワネ派はジョスパンに、相手方候補の当選を妨げるため投票したと回答している。この傾向は、庶民階層でもっとも強いものであった⁽²⁾。

候補者への投票動機は、シラクの場合も、ジョスパンの場合も、四分の一程度が「熱烈 (beaucoup d'enthousiasme)」⁽³⁾に、三分の一程度が「熱心 (assez d'enthousiasme)」⁽³⁾にといった具合で、投票意図が明確な有権者は多数とは言えなかった。

4月23日にルペンに投票した有権者の第二回投票での動向を見ると様々な色合いが見える。「ルペン=シラク派」⁽⁴⁾の41%が「熱烈」または「熱心」な気持ちで投票しているのに対し、「ルペン=ジョスパン派」では34%に留まっている。ここには有権者の社会階層が反映しているように見られる。

選挙に関しての「熱意の欠如 (le manque de ferveur)」は、次の階層にみられる。選挙当日にようやく投票候補者を決定した有権者のなかに、労働者、事務職、失業者、新有権者および「無党派 (moins politisés)」などの層が発見できる⁽⁵⁾。

37%のルペン派、42%のヴォワネ派および43%のラギュイエ派は、選挙当日にその去就を決定した。この動向はルペン派についてはジョスパンに、ラギュイエ派についてはシラクに有利に働いたが、大勢に影響を与えるほどではなかった⁽⁶⁾。

5月2日の討論会も、6%の有権者が「大いに (beaucoup)」, 11%は「相当 (assez)」, 態度決定に考慮したと答えているが、大勢には大きな影響を与えなかった⁽⁷⁾。

有権者が候補者を選択するにあたって考慮した候補者の資質について資料 A-6 は10項目を挙げる。シラクはジョスパンに、「経験 (expérience)」で39ポイント、「外国に対してフランスを代表する力量 (capacité à représenter la France à l'étranger)」では20ポイント、「決定能力 (capacité à décider)」では12ポイント、また「活力 (dynamisme)」では10ポイント

の差をつける。逆に、ジョスパンは、「誠実 (l'honnêteté)」で 31 ポイント、「フランス人に対しての親近感 (proximité à l'égard des Français)」で 8 ポイントの差をつけているにすぎない。経験と誠実さの戦いであった。

有権者が候補者の選択の際考慮する問題関心については、資料 A-7 が挙げる 16 項目からは次の傾向を見ることができる。ジョスパンの支持者は、社会主義の候補者として彼に期待しており、そのことは、「社会的不平等 (les inégalités sociales)」で 13 ポイント、「労働時間の削減 (la réduction du temps de travail)」で 12 ポイント、「社会的既得権の防衛 (la défense des acquis sociaux)」で 7 ポイントの差をつけていることから見ることもできる。逆にシラクの支持者は、「移民問題 (l'immigration)」11 ポイント、「治安 (l'insécurité)」6 ポイント、「フランスの世界における地位 (place de la France dans le monde)」9 ポイントなど伝統的かつ右翼的問題に関心をもっていることがわかる。また、「失業問題 (le chômage)」はシラク支持者の 33%、ジョスパン支持者の 30% が関心をもつように双方の支持者の最大関心事である。さらに「社会的不平等」についてもシラク支持者は 10% の関心を示している。また、「購買力水準 (le niveau de votre pouvoir d'achat)」についてはシラク支持者が 16% の関心を示すのは当然としても、ジョスパン支持者も 11% の関心を示し、第 4 位の関心項目となっているように双方の支持者の問題関心に類似性が生じているところに一つの特色を見ることができよう。

支持者の傾向として、シラクは給与所得者 (salariés) 層への支持を拡大したのに対して、ジョスパンは社会党が近年失ってきた労働者層で驚異的な支持回復をもたらすことはできなかったが、最終的には労働者および教員層において広範な支持を獲得し、事務職でも 53% の支持を獲得することに成功した。

これに対して、シラクはその他のすべての階層で過半数を占め、とりわけ非給与所得層（商人、職人、企業主および自由業）では圧倒的であり、中・高級管理職においても相当程度の支持を得ている。

結論的に見れば左右両候補とも伝統的支持基盤を基礎としている。「公共部門 (secteur public)」従事者は 59% の比率でジョスパンに投票したのに対して、「私的部門 (secteur privé)」では 57% がシラクを選んだ。失業者の 52% がジョスパンを選び、退職者 (retraités) の 54% はシラクを選んだ。失業者およびその家族は左翼に投票したのに対し、この災禍から逃れている者は右翼を選んだのである⁽⁶⁾。

今回の選挙における重要な相違点は、青年層の投票動向である。前回、ミッテランは 35 歳未満の層において広範に多数を占めた。ところがジョスパンは 18～24 歳および 25 歳～34 歳の層において過半数を得ることができず、代わりにシラクが学生を含むこの層の支持を得たのである。しかしこの傾向には若干のニュアンスがある。その一つは 35 歳未満の女性の 50% はジョスパンに投票しており、シラク支持に回ったのは、18～24 歳では 62%、25～34 歳では 53% の成年男子層だということである。また労働者、事務職および「中間管理職 (profes-

sions intermédiaires)」においては、年長層より若年層が右翼に投票している。35歳以上の中間管理職では55%が、ジョスパンを選んでいるのに対し、35歳未満では46%にすぎない。18～24歳の層をみると、「青年層の期待に応えることができる」とみなされているのは、ジョスパン(38%)ではなくシラク(46%)なのである⁽⁹⁾。

60%の環境保護派は、シラクを選び、国民戦線に親近感を持つ者の25%はジョスパンに投票し、また共産党の共鳴者の11%がシラクを選択するという現象もみられた⁽¹⁰⁾。

宗教色の強い者はシラクへ、また弱い者はジョスパンへと宗教的立場による選択傾向もまた今回確認することができた⁽¹¹⁾。

さらに第一回投票から第二回投票への有権者別の動向を見よう。

「第二回投票で投票した」ルペン派の57%はシラクに、23%はジョスパンに、そして20%は白票または無効票へと分かれた。しかし注目すべきことは第一回投票で投票した者の15%が棄権に回ったことであり、彼らの意向については今回の調査に現れていないことに注意する必要がある⁽¹²⁾。また結果的にみるとシラクはルペン派の票の過半数は獲得できなかったということもこの調査結果から確認することができる⁽¹³⁾。

第二回投票での投票動向をみると、ルペンの支持者といわれる者が、いまだに本来の社会的政治的傾向に引きつけられて行動する傾向を残しており、最終的判断においては、それに引きつけられて行動したように思われる⁽¹⁴⁾。

「ルペン＝ジョスパン派」の構成をみると、「ルペン＝シラク派」では労働者および事務職層は38%の比率にすぎないのに対し、この層が66%にのぼる。第二回投票で国民戦線から左翼へ支持を替えた者の42%は「庶民」または「困窮」層に分類できる。この層では右翼へ投票した者は20%にすぎない。このようにして庶民層のルペン派は左翼の側に回帰した。「ルペン＝ジョスパン派」の少数は左翼に分類されること(33%)、また社会党に共鳴することを公言(26%)している⁽¹⁵⁾。

バラデュール派はほぼシラク支持に転じた。「バラデュール＝ジョスパン派」は中道左派に位置し、「バラデュール＝シラク派」より庶民的である。

5月7日に左翼に転じたドゥビリエ派についても考慮すると、「ビリエ＝ジョスパン派」は「ビリエ＝シラク派」に較べより実践的でないことが判る。またヴォアネ派の有権者の投票動向についてもその実践的確信に応じて同様の傾向がみられる⁽¹⁶⁾。

最後に、第一回投票の棄権者についてみると、両候補者へほぼ均等に分かれたことが判る⁽¹⁷⁾。

註

- (1) この調査は、Libération, M 6, BFM の要請で、l'Ifop が1995年5月7日に、投票所出口において、5661人を対象に行われ、匿名かつ自書で回答を求めたものである(Libération du mardi 9 mai 1995, pp. 10-11. 以下数字はリベラシオン紙による)。

資料 A

Qui a voté quoi (A-1)

Votes de dimanche	Jospin	Chirac	Total
Sexe			
Homme	47%	53%	100%
Femme	49%	51%	100%
Age			
18 - 24 ans	45%	55%	100%
25 - 34 ans	48%	52%	100%
35 - 49 ans	53%	47%	100%
50 - 64 ans	44%	56%	100%
65 ans et plus	45%	55%	100%
Profession			
Etudiant	44%	56%	100%
Ouvrier	65%	35%	100%
Employé	53%	47%	100%
Cadre moyen, technicien	45%	55%	100%
Enseignant	67%	33%	100%
Industriel, chef d'entreprise	23%	77%	100%
Commerçant, artisan	22%	78%	100%
Cadre supérieur	39%	61%	100%
Profession libérale	31%	69%	100%
Agriculteur exploitant	29%	71%	100%
Inactif	40%	60%	100%

A quelle catégorie avez-vous le sentiment d'appartenir?

Les privilégiés	41%	59%	100%
Les gens aisés	33%	67%	100%
Les classes moyennes supérieures	40%	60%	100%
Les classes moyennes inférieures	49%	51%	100%
Les classes populaires	68%	32%	100%
Les défavorisés	57%	43%	100%

Les transferts de voix (A-2)

Votes de dimanche	Jospin	Chirac	Blanc ou nul	Total
Vote au premier tour				
Arlette Laguiller	66%	22%	12%	100%
Robert Hue	86%	7%	7%	100%
Lionel Jospin	97%	2%	1%	100%
Dominique Voynet	60%	26%	14%	100%
Edouard Balladur	9%	86%	5%	100%
Jacques Chirac	2%	97%	1%	100%
Philippe de Villiers	14%	77%	9%	100%
Le Pen	23%	57%	20%	100%
Jacques Cheminade	Non significatif			
Blanc ou nul	30%	27%	43%	100%
Abstention	49%	45%	6%	100%
NSPP	36%	53%	11%	100%

Le moment de la décision (A-3)

Votes de dimanche	Jospin	Chirac	Ensemble
A quel moment avez-vous pris la décision de voter pour le candidat pour lequel vous venez de voter?			
Depuis toujours je vote comme ça	45%	37%	39%
Il y a déjà plusieurs mois	15%	23%	19%
Il y a plusieurs semaines	15%	14%	14%
Il y a quelques jours	14%	15%	15%
Aujourd'hui même	6%	6%	7%
Sans réponse	5%	5%	6%
Total	100%	100%	100%

Les raisons du choix (A-4)

Vous avez fait votre choix plutôt en fonction de...

Votes de dimanche	Jospin	Chirac	Ensemble
La personnalité du candidat	13%	19%	16%
Son appartenance politique	29%	29%	27%
Son programme	24%	21%	23%
Les valeurs qu'il représente	24%	22%	22%
Sans réponse	10%	9%	12%
Total	100%	100%	100%

Le rejet de l'autre (A-5)

Vous avez choisi le candidat pour lequel vous venez de voter...

Votes de dimanche	Jospin	Chirac	Ensemble
Plutôt par adhésion à ce candidat	51%	49%	48%
Plutôt par rejet de l'autre candidat	42%	43%	41%
Sans réponse	7%	8%	11%
Total	100%	100%	100%

Les qualités des candidats (A-6)

Parmi les éléments suivants, quels sont ceux qui vous ont le plus incité à voter pour le candidat que vous venez de choisir?

Votes de dimanche	Jospin	Chirac	Ensemble
Son dynamisme	29%	39%	33%
Son expérience	14%	53%	32%
Ses qualités de rassembleur	15%	14%	14%
Sa capacité à décider	14%	26%	19%
Sa proximité à l'égard des Français	28%	20%	23%
Son honnêteté	50%	19%	32%
Son sens des réalités	26%	25%	25%
Son entourage	18%	16%	17%
Sa capacité à changer les choses	26%	26%	25%
Sa capacité à représenter la France à l'étranger	10%	30%	19%
Sans réponse	16%	16%	19%
Total	100%	100%	100%

Les problèmes qui ont compté (A-7)

Parmi les problèmes suivants, quels sont les deux qui ont le plus compté dans votre vote?

Votes de dimanche	Jospin	Chirac	Ensemble
Le chômage	30%	33%	31%
Les inégalités sociales	23%	10%	16%
Le niveau de votre pouvoir d'achat	11%	16%	13%
L'immigration	5%	16%	11%
L'éducation	8%	10%	9%
La réduction du temps de travail	14%	2%	8%
L'avenir de la protection sociale	9%	7%	8%
La défense des acquis sociaux	11%	4%	7%
La construction de l'Europe	7%	8%	7%
Place de la France dans le monde	2%	11%	6%
L'insécurité	3%	9%	6%
La pauvreté, les SDF	4%	4%	4%
La protection de l'environnement	4%	2%	3%
Les scandales et les affaires	3%	3%	3%
Le logement	2%	2%	2%
Le sida	2%	1%	2%
NSPP	28%	27%	28%
Total	100%	100%	100%

表 4 **LES RÉSULTATS DU SECOND TOUR**

Jacques Chirac
rassembleur du nouveau « peuple de droite »



出典：ルモンド大統領選挙特集号 74 頁

表 5 **Tableau 7 : LES REPORTS DE VOIX AU SECOND TOUR**

Votent au second tour			
Electeurs au 1 ^{er} tour de	Lionel Jospin	Jacques Chirac	Abstention
A. Laguier	46	19	35
R. Hue	61	10	29
L. Jospin	95	2	3
D. Voynet	55	18	27
E. Balladur	7	74	19
J. Chirac	1	96	3
Ph. de Villiers	9	68	23
J.-M. Le Pen	11	50	39
J. Cheminade	33	33	34
Ensemble	43	57	

出典：ルモンド大統領選挙特集号 50 頁

- (2) Ibidem, p. 10.
- (3) Loco citato
- (4) 第一回投票でルペンを支持し、第二回投票ではシラクに投票した場合をこのように表現する。以下同様に「ユー＝ジョスパン派」などと表現する。
- (5) Libération du mardi 9 mai 1995, p. 10.
- (6) Loc. cit.
- (7) Loc. cit.
- (8) Libération du mardi 9 mai 1995, p. 11.
- (9) Loc. cit.
- (10) Loc. cit.
- (11) Loc. cit.
- (12) ルペン派の投票動向については前章を参照せよ。
- (13) Libération du mardi 9 mai 1995, p. 11.
- (14) Loc. cit.
- (15) Loc. cit.
- (16) Loc. cit.
- (17) Loc. cit.

(五) 新大統領への期待

大統領選挙後に行われた世論調査をもとに、「変化 (changement)」の担い手としての新大統領へのフランス国民の期待感を素材に大統領選挙を振り返ってみよう⁽¹⁾。

この調査でシラクの勝利の意義を問うたところ、三分の二を越える者 (68%) は、「変化および改革の意思」によると答えた。「左翼に対する右翼の勝利」であると答える者は 26% にすぎない。この傾向は第二回投票でシラクに投票した有権者への質問でも、67% が「変化および改革の実行」のためと答え、「左翼の勝利の阻止」と答える者は 30% にすぎず同様の反応を示している。この結果からみると、シラクの勝利は左右対決の構図から抜け出し有権者の期待する優先的課題の体現者としての位置にうまく身を置くことができたことによるように思われる (資料 B-1・2)。

調査結果の詳細をみよう。提示された 9 の課題に対して、調査対象となったほぼすべての人 (92%) が優先的課題として重要視したのは、「失業との闘い (La lutte contre le chômage)」である。第二は、55% の「社会的保護 (La protection sociale)」, 第三は、38% の「移民問題 (L'immigration)」, 第四は、37% の「社会的離脱との闘い (La lutte contre l'exclusion)」そして第五は、30% の「ヨーロッパの構築 (La construction de l'Europe)」の順となる (資料 B-3-1)。

「失業との闘い」については、第二回投票日の夜新大統領自身が「主戦場」と述べていることから課題実現への期待 (55%) がよせられている分野である。もちろん RPR の支持者では 76%, UDF の支持者では 65% であるのに対して、社会党支持者では 44%, 共産党支持者では 33% と支持政党別にみると期待度はかなり異なる。ここでは二つの措置が主に望まれている。「企業の社会保険料負担の軽減 (La baisse des charges sociales des entreprises)」

(32%) および「賃上げによる消費の活性化 (La relance de la consommation en augmentant les salaires)」(31%) である。この二つの措置について、ジョスパンの支持者は後者の措置に積極的 (38% 対 28%) であり、シラクの支持者は前者の措置をより望んでいる (44% 対 18%)。ところが社会党候補の主要な政策である「労働時間の削減 (La réduction de la durée du travail)」については、ジョスパン支持者の 25% に対してシラク支持者は 6% の必要性しか認めず、調査対象全体でも 15% の結果となった (資料 B-3-7)。

社会的保護の領域については、「医療費給付の現状維持 (Le maintien des remboursements de santé au niveau actuel)」(34%) および「小都市における病院の維持 (Le maintien des hôpitaux dans les petites villes)」(22%) について、あらゆる政治的社会的階層に属するものの共通の関心となった (資料 B-3-2)。

「社会的脱落との闘い」は、ジョスパンの支持者にとっては、失業問題、社会的保護につぐ第三の優先課題であるのに対し、シラク支持者にとっては、移民問題につぐ第四の課題となる。しかしこの領域における「宿無しの人に対する空き家の徴用 (Le réquisition de logements vides pour les sans-abri)」の措置について、ジョスパン支持者の 54%、シラク支持者の 45%、全体としても 49% の人が、他の措置以上に最優先措置と考えているのは注目すべきである。その意味では、ドラゴン通り建物占拠事件におけるシラク市長の徴用措置が有権者に好意的に受け取られ、選挙戦の流れのなかで一定の役割をはたしたことが推定できる (資料 B-3-10)。

問題の移民問題についてみると、シラクの支持者では 44% の優先的課題であるのに対して、ジョスパンの支持者では 31% との差がある。この問題については世論の分裂がもっとも激しい。第一回投票の際の調査をみると、この問題への関心は、ジョスパン支持者で 29%、シラク支持者で 40%、またバラデュール支持者では 41% であるのに対し、ルベン支持者では 63% が優先課題と意識するほどの差があるのである。移民問題について望まれる措置をみると、第一のものは、不法移民の強制送還である (38% : シラク支持者では 46%、ジョスパン支持者では 29% の差がある)。第二は、ヨーロッパ連合の市民を含む国境管理の再強化を望むものが 29% である。移民の融和について望むものは 27% (ジョスパン支持者の 37%、シラク支持者の 20%) にすぎないという結果が生じている (資料 B-3-2)。

ヨーロッパ統合問題については 30% が関心をもち、44% がヨーロッパ単一通貨の早急の実施を望んでいる。外交問題についてはそれほどの関心 (10%) がもたれていないようである。47% が、例えばボスニア問題のような紛争の終結のためにより関与すべきと考えているが、アフリカ諸国への援助については 10% が必要性を認めるにすぎない。さらに 30% が軍事支出の削減を望み、現在問題となっている核実験の再開の必要性を認めるものは 6% にすぎない (資料 B-3-5・6)。

この調査結果の全体的傾向をみた場合、大統領任期の 5 年への短縮問題または兼職の完全禁止には一定の関心が払われているにもかかわらず、ジョスパンが選挙運動において強く主張し

た政治制度改革（8%）または政治倫理（16%）には強い関心が払われていないようである（資料 B-3-1）。むしろ、選挙にいたる過程のなかでシラクが変化の担い手の位置を獲得したことが彼の勝因となったようである。しかしシラクに期待されている変化とは、社会問題への対応であることに注意する必要があるだろう。このフランス国民の関心は、ジョスパンを第一回投票で第一位、シラクを第二位の位置に引き上げ、94 年段階で有力な候補者とされたバラデュー

資料 B La signification du succès de M. Chirac

Estimez-vous que l'élection de M. Chirac
à la présidence de la République traduit avant tout :

1	Une victoire de la droite contre la gauche	26 %
	Une volonté de changement et de réformes pour le pays	68 %
	Sans opinion	6 %

**Vous-même (question posée aux électeurs de M. Chirac
au second tour de l'élection présidentielle)
en votant pour M. Chirac avez-vous voulu avant tout :**

2	Eviter la victoire de la gauche	30 %
	Mettre en œuvre des changements et des réformes pour le pays	67 %
	Sans opinion	3 %

Les attentes des Français...

Parmi les dossiers suivants, quels sont ceux que vous jugez
prioritaires en France pour les prochaines années ?
Sur quels dossiers faites-vous confiance à M. Chirac
pour améliorer les choses ?

	Les dossiers prioritaires des Français	Les dossiers pour lesquels les Français font confiance à M. Chirac
3-1	La protection sociale	55 %
	L'immigration	38 %
	La réforme des institutions	8 %
	La construction de l'Europe	30 %
	La politique étrangère et de défense de la France	10 %
	La lutte contre le chômage	92 %
	La moralisation de la vie publique	16 %
	La réforme de l'éducation	27 %
	La lutte contre l'exclusion	37 %
	Aucun	0 %
	Sans opinion	1 %

(1) Le total des pourcentages est supérieur à 100, les personnes interrogées ayant pu donner quatre réponses.

... par secteurs

Dans le domaine de la protection sociale,

quelle est la mesure qu'il faudrait prendre en priorité ?

3-2	Le maintien du pouvoir d'achat des retraités	24 %
	Le maintien des remboursements de santé au niveau actuel	34 %
	Le maintien des hôpitaux dans les petites villes	22 %
	Le maintien des indemnités de chômage au niveau actuel	17 %
	Sans opinion	3 %

En ce qui concerne l'immigration,
quelle est la mesure qu'il faudrait prendre en priorité ?

3-3	Le rétablissement de contrôles stricts aux frontières (y compris pour les citoyens des autres pays de l'Union européenne)	29 %
	L'assouplissement des contrôles d'identité sur le territoire français	3 %
	Le renvoi dans leur pays du plus grand nombre possible d'immigrés clandestins	38 %
	Des mesures pour favoriser l'intégration des immigrés en situation régulière	27 %
	Sans opinion	3 %

En ce qui concerne les institutions,
quelle est la mesure qu'il faudrait prendre en priorité ?

3-4	La réduction à cinq ans du mandat du président de la République	36 %
	Le renforcement du contrôle du Parlement sur le gouvernement	15 %
	L'extension du recours au référendum sur les grands sujets de société	27 %
	Une dose de proportionnelle pour l'élection des députés	15 %
	Sans opinion	7 %

En ce qui concerne la construction de l'Europe,
quelle est la mesure qu'il faudrait prendre en priorité ?

3-5	La mise en place d'une armée européenne	14 %
	La création d'une présidence de l'Europe pour un mandat de trois ans	18 %
	La mise en place rapide de la monnaie unique européenne	44 %
	L'élargissement de l'Union européenne aux pays de l'Est	11 %
	Sans opinion	13 %

En ce qui concerne la politique étrangère
et de défense de la France, quelle est la mesure
qu'il faudrait prendre en priorité ?

3-6	La réduction des dépenses militaires	30 %
	La reprise des essais nucléaires	6 %
	L'aide de la France aux pays d'Afrique	10 %
	Une intervention accrue de la France pour mettre fin aux conflits dans le monde (comme en Bosnie par exemple)	47 %
	Sans opinion	7 %

En ce qui concerne la lutte contre le chômage,
quelle est la mesure qu'il faudrait prendre en priorité ?

3-7	La réduction de la durée du travail	15 %
	La baisse des charges sociales des entreprises	32 %
	La relance de la consommation en augmentant les salaires	31 %
	La baisse des impôts et des cotisations	19 %
	Sans opinion	3 %

Sur la moralisation de la vie publique,
quelle est la mesure qu'il faudrait prendre en priorité ?

3-8	L'indépendance totale des juges par rapport au gouvernement	22 %
	L'interdiction pour la presse de rendre compte des affaires judiciaires durant leur instruction	14 %
	L'incapacité à vie pour un élu reconnu coupable d'enrichissement personnel	29 %
	La suppression totale du cumul des mandats pour les hommes politiques	31 %
	Sans opinion	4 %

Dans le domaine de l'éducation,
quelle est la mesure qu'il faudrait prendre en priorité ?

3-9	Le développement de la formation alternée entre l'école et l'entreprise	34 %
	L'adoption de nouveaux rythmes scolaires (l'apprentissage du savoir le matin, les activités culturelles et sportives l'après-midi)	24 %
	La mise en place d'un système de sélection à l'Université	4 %
	Le renforcement du soutien scolaire et de l'encadrement dans les établissements situés dans des zones défavorisées	35 %
	Sans opinion	3 %

Dans le domaine de la lutte contre l'exclusion,
quelle est la mesure qu'il faudrait prendre en priorité ?

3-10	L'extension du Revenu minimum d'insertion (le RMI) aux jeunes de moins de vingt-cinq ans	12 %
	L'accès gratuit à la protection sociale pour les sans-revenu	26 %
	La gratuité des transports pour les chômeurs	9 %
	La réquisition de logements vides pour les sans-abri	49 %
	Sans opinion	4 %

FICHE TECHNIQUE

Sondage effectué pour *Le Monde*, « La Marche du siècle » (FR 3) et France-Inter, réalisé par la Sofres le 9 mai 1995 auprès d'un échantillon national de mille personnes représentatif de l'ensemble de la population âgée de dix-huit ans et plus. Enquête réalisée par téléphone selon la méthode des quotas (sexe, âge, profession du chef de ménage) et stratification par régions et catégories d'agglomération.

ルをして第一回投票で第三位に甘んぜさせた決定的理由、すなわち「現状維持の人 (l'homme de la continuité)」との評価が選挙時における決定的弱点とされたことも結びつくと思われるのである。

註

- (1) この調査は、Le Monde, FR 3 および France-Inter の要請で、la Sofres が 1995 年 5 月 9 日に年齢、性別、職業、地域および階層を考慮して 18 歳以上の 1000 人を対象に、電話で調査したものである。調査結果は、翌 10 日にフランス 3 の“La Marche du siècle”で放送され、11 日付ルモンド紙に掲載された。本稿はルモンド紙による (Le Monde du jeudi 11 mai 1995, p. 9.)。

おわりに

1995 年大統領選挙は、失業・貧困問題に強い危機感を抱くフランス国民の社会的「変化」への願望を捉えたシラクが新大統領としての地位を獲得した。新大統領に課せられた課題は、世論調査からもまた彼自身の選挙キャンペーンからも判るように、いかに社会的混乱要素となった貧困・失業問題を解決または緩和することができるかにある。このことは今後のフランス政治が安定の方向に向かうかどうかの一つの鍵でもある。

また今世紀末から来世紀にかけてのフランスおよびヨーロッパの課題は、多元的共存の実現にあるように思われる。19 世紀的左右対立とも冷戦構造的対立ともことなり、またファシズム的対立ともことなる同時存在を前提とする多元性・多様性から生ずる対立を克服する課題である。

フランス社会は、今日まで、多様性、すなわち常に言語的、民族的、宗教的、文化的等々の相違を抱えつつも、「フランス化」という強い統合的契機の中かで一体性を保ってきたのであるが、現在、そこに大きな綻びが生じ、顕在化しているのである。当初はアラブ問題として、宗教的・民族的問題として顕在化したのであるが、地域性の承認と EU の枠組みの確立をも考慮するならば、そこにはすでに単一的統合ではなく多元的共存、しかもフランス文化のもとでの多元的共存ではなく、究極的にはあらゆる分野における異次元性を前提とした多元的共存をも強いるような状況が生まれていると思われるのである。パリの喧騒としてではなく、フランスの寛容さが、この傾向をも飲み込んで、噛み砕いてしまうことができる程度までに高まることのできるのか否か、問われているのである。ところが現実の政治の世界では、国民戦線にみられるような内向きのナショナリズムの動きがあり、またシラク新大統領の核実験再開にみられるようなフランス「国家」の存在の誇示・独自性の主張がある。しかしヨーロッパ統合の動きがここまで進むと、もはやフランスが今の時点で内向きの独自性に固執することは、核問題においてすらシラク新大統領が EU の戦略としての核構想発言やドイツへの核の傘の拡大発言をなさざるを得ないように、経済的領域のみならず政治的領域においても、不可能なことであると思われる。ドゴール時代になしえたような名誉ある孤立はすでに時代錯誤となっているの

である。

他方社会党および左翼陣営の側の展望はどうであろうか。ジョスパンという新たな結集軸を得ることにより、一定の方向はみえてきたのだろうか。問題はシラクの側と同じである。ミッテランの 80 年代は、社会党によるフランス資本主義の再編という点で意味があったと私には思われる。必要かつ必然の流れであり、ドゴール派ではなく社会党であったからこそできたこの再編は、大量の失業者とそれに伴う貧困を生み出した。現在の経済状況では、その解決のためにさらなる生産の拡大を行ない新たなパイを再配分するというような形で社会保障の拡大を行ない矛盾を解決するというわけには行かないのである。では新たな社会の安定化と活性化はどの分野で、何により行うのかということになる。

左右いずれの側にしてもその答えを見つけ出さないかぎり、フランス政治の混迷は、大統領の 7 年任期から生ずる見かけの安定性とは逆に、不安定そのもののまま続くことになる。現実問題として次の総選挙は 3 年後の 98 年に行なわれるし、その他の選挙シーズンもすぐに到来するのである。そして、大衆の不満は新たなヒーローを選挙を介して求めつづけるのか、それとも暴動的に噴出するのか、政治の側の責任が問われるのである。

* この研究は 1995 年度工学院大学総合研究所一般研究費の助成をうけた研究の成果の一部である。

はせがわ けん（共通課程助教授 憲法学）

表 6 フランス本国における第 1 回投票結果 (総左翼票, 総右翼票およびルペン派票)

Départements	Total gauche %	Total droite %	Le Pen %	Départements	Total gauche %	Total droite %	Le Pen %
TOTAL	40,65	43,81	15,27	Jura	41,30	42,98	15,46
Paris	39,16	51,39	9,25	Landes	47,94	42,89	8,90
Seine-et-Marne	38,39	42,95	18,40	Loir-et-Cher	39,23	45,13	15,36
Yvelines	36,03	49,95	13,78	Loire	37,32	41,33	21,09
Essonne	43,15	42,27	14,34	Haute-Loire	35,74	48,13	15,80
Hauts-de-Seine	38,95	49,18	11,65	Loire-Atlantique	43,74	46,37	9,61
Seine-Saint-Denis	46,42	34,57	18,78	Loiret	37,44	46,44	15,83
Val-de-Marne	44,88	41,57	13,34	Lot	48,62	43,38	7,71
Val-d'Oise	41,54	40,73	17,50	Lot-et-Garonne	42,05	42,91	14,74
				Lozère	34,96	55,12	9,62
Ain	35,45	44,41	19,86	Maine-et-Loire	35,52	54,09	10,09
Aisne	43,53	38,49	17,69	Manche	35,05	53,50	11,12
Allier	45,34	43,15	11,23	Marne	37,15	44,94	17,62
Alpes-de-Hte-Provence	43,30	40,57	15,79	Haute-Marne	36,79	42,52	20,35
Hautes-Alpes	40,70	46,22	12,74	Mayenne	33,36	56,85	9,47
Alpes-Maritimes	29,56	47,74	22,48	Meurthe-et-Moselle	41,88	39,73	18,12
Ardèche	42,28	43,21	14,18	Meuse	36,16	43,77	19,76
Ardennes	41,86	39,85	18,04	Morbihan	38,60	47,40	13,78
Ariège	54,75	34,42	10,50	Moselle	34,67	41,22	23,82
Aube	35,49	45,94	18,28	Nièvre	49,78	38,07	11,88
Aude	50,36	35,84	13,56	Nord	43,16	38,42	18,18
Aveyron	39,66	51,53	8,51	Oise	38,93	40,30	20,48
Bouches-du-Rhône	40	38,34	21,42	Orne	34,20	50,68	14,81
Calvados	41,47	45,85	12,38	Pas-de-Calais	47,39	37,14	15,21
Cantal	34,07	58,48	7,12	Puy-de-Dôme	45,30	43,40	11
Charente	45,83	43,63	10,21	Pyrénées-Atlantiques	41,92	48,19	9,61
Charente-Maritime	41,28	47,09	11,31	Hautes-Pyrénées	48,92	41,40	9,38
Cher	42,95	43,19	13,54	Pyrénées-Orientales	41,26	39,07	19,45
Corrèze	39,33	55,87	4,58	Bas-Rhin	28,19	45,66	25,83
Corse-du-Sud	32,86	55,26	11,60	Haut-Rhin	29,55	45,33	24,80
Haute-Corse	38,20	51,71	9,83	Rhône	37,16	43,45	19,14
Côte-d'Or	38,99	44,92	15,84	Haute-Saône	40,3	42,71	16,71
Côtes-d'Armor	47,99	42,93	8,84	Saône-et-Loire	41,84	44,65	13,24
Creuse	43,68	49	7,03	Sarthe	41,74	46,51	11,43
Dordogne	46,55	44,39	8,76	Savoie	38,85	44,05	16,82
Doubs	40,52	43,82	15,40	Haute-Savoie	33,11	50,17	16,43
Drôme	41,16	41,17	17,36	Seine-Maritime	44,83	39,12	15,79
Eure	37,93	43,40	18,37	Deux-Sèvres	40,81	51,48	7,38
Eure-et-Loir	36,17	45,36	18,22	Somme	43,51	40,98	15,24
Finistère	43,87	46,69	9,20	Tarn	44,56	42,20	12,95
Gard	42,50	36,98	20,28	Tarn-et-Garonne	41,77	42,13	15,77
Haute-Garonne	49,34	37,76	12,63	Var	32,29	45,13	22,35
Gers	45,83	44,49	9,33	Vaucluse	36,79	39,82	23,12
Gironde	45,13	41,82	12,78	Vendée	32,01	60,41	7,30
Hérault	42,86	37,95	18,96	Vienne	42,96	46,24	10,49
Ille-et-Vilaine	42,79	47,99	8,98	Haute-Vienne	49,29	42,88	7,57
Indre	42,3	44,38	13	Vosges	36,77	42,91	19,98
Indre-et-Loire	41,17	45,57	12,97	Yonne	37,34	45,30	17,04
Isère	44,21	38,06	17,48	Territoire de Belfort	43,77	37,25	18,75

表 7 第 2 回投票県別結果 (フランス本国)

Départements	Second tour 7 mai 1995				Départements	Second tour 7 mai 1995			
	Abstentions	Blancs Nuls	Chirac	Jospin		Abstentions	Blancs Nuls	Chirac	Jospin
TOTAL	19,49	06,01	52,68	47,32	Jura	17,32	06,85	52,29	47,71
Paris	22,57	03,55	60,10	39,90	Landes	15,07	05,08	47,29	52,71
Seine-et-Marne	20,68	06,39	55,50	44,50	Loir-et-Cher	18,24	06,63	51,80	48,20
Yvelines	18,62	05,11	60,64	39,36	Loire	22,16	06,94	55,46	44,54
Essonne	19,26	05,83	53,30	46,70	Haute-Loire	16,96	06,13	57,75	42,25
Hauts-de-Seine	21,56	04,52	59,02	40,98	Loire-Atlantique	20,24	05,29	50,33	49,67
Seine-Saint-Denis	25,61	06,66	48,16	51,84	Loiret	18,65	06,54	56,10	43,90
Val-de-Marne	21,55	05,58	52,99	47,01	Lot	13,25	04,99	48,11	51,89
Val-d'Oise	20,95	06,24	53,77	46,23	Lot-et-Garonne	15,70	06,73	52,06	47,94
					Lozère	14,39	04,50	61,45	38,55
Ain	19,89	06,74	57,43	42,57	Maine-et-Loire	18,47	05,74	56,99	43,01
Aisne	17,96	05,73	45,45	54,55	Manche	18,38	04,80	58,85	41,15
Allier	18,40	06,50	49,74	50,26	Marne	21,49	06,03	54,53	45,47
Alpes-de-Hte-Provence	17,68	06,84	52,05	47,95	Haute-Marne	19,98	06,93	52,17	47,83
Hautes-Alpes	17,92	06,64	54,97	45,03	Mayenne	17,78	05,30	59,49	40,51
Alpes-Maritimes	23,24	06,06	65,48	34,52	Meurthe-et-Moselle	20,81	06,31	48,01	51,99
Ardèche	17,02	06,23	51,63	48,37	Meuse	18,49	06,48	52,29	47,71
Ardennes	19,79	05,63	46,71	53,29	Morbihan	17,26	05,06	53,38	46,62
Ariège	16,22	05,61	40,17	59,83	Moselle	21,81	07,47	51,33	48,67
Aube	18,57	06,50	55,32	44,68	Nièvre	18,24	05,65	42,95	57,05
Aude	15,51	06,34	44,37	55,63	Nord	21,08	06,54	46,30	53,70
Aveyron	14,80	04,69	55,87	44,13	Oise	18,91	06,86	51,10	48,90
Bouches-du-Rhône	22,35	07,37	54,48	45,52	Orne	17,73	05,35	57,61	42,39
Calvados	18,90	05,00	51,11	48,89	Pas-de-Calais	18,89	06,65	42,72	57,28
Cantal	15,64	03,42	62,94	37,06	Puy-de-Dôme	17,17	05,93	51,12	48,88
Charente	19,39	05,18	46,92	53,08	Pyrénées-Atlantiques	17,54	05,31	53,90	46,10
Charente-Maritime	19,53	05,42	51,68	48,32	Hautes-Pyrénées	18,38	05,78	46,58	53,42
Cher	20,24	06,53	50,65	49,35	Pyrénées-Orientales	18,88	06,76	51,77	48,23
Corrèze	12,43	03,89	61,37	38,63	Bas-Rhin	22,29	08,12	58,89	41,11
Corse-du-Sud	25,06	03,39	62,13	37,87	Haut-Rhin	21,58	08,57	56,45	43,55
Haute-Corse	21,87	07,04	57,27	42,73	Rhône	21,25	06,20	57,93	42,07
Côte-d'Or	18,90	05,81	54,19	45,81	Haute-Saône	15,66	06,83	50,39	49,61
Côtes-d'Armor	15,11	04,27	45,94	54,06	Saône-et-Loire	20,08	06,14	51,38	48,62
Creuse	17,70	04,46	53,64	46,36	Sarthe	19,95	05,88	49,21	50,79
Dordogne	14,31	05,66	50,02	49,98	Savoie	19,89	06,10	56,07	43,93
Doubs	16,88	05,82	52,41	47,59	Haute-Savoie	20,33	06,15	61,94	38,06
Drôme	18,66	06,68	52,82	47,18	Seine-Maritime	20,83	06,28	46,77	53,23
Eure	18,98	06,45	52,97	47,03	Deux-Sèvres	17,69	04,91	52,49	47,51
Eure-et-Loir	19,58	06,55	54,27	45,73	Somme	16,61	05,74	46,87	53,13
Finistère	17,13	04,21	51,16	48,84	Tarn	15,22	06,30	49,44	50,56
Gard	18,73	07,72	51,07	48,93	Tarn-et-Garonne	15,55	06,08	50,93	49,07
Haute-Garonne	18,55	05,62	45,53	54,47	Var	21,63	07,12	61,59	38,41
Gers	15,34	05,64	49,22	50,78	Vaucluse	18,91	08,12	55,85	44,15
Gironde	18,14	05,62	48,79	51,21	Vendée	16,58	05,41	60,38	39,62
Hérault	18,14	06,66	51,08	48,92	Vienne	18,51	05,33	50,28	49,72
Ille-et-Vilaine	18,48	04,43	51,19	48,81	Haute-Vienne	16,19	05,87	48,13	51,87
Indre	17,91	06,46	49,70	50,30	Vosges	18,13	07,26	51,42	48,58
Indre-et-Loire	20,15	05,86	50,58	49,42	Yonne	18,92	06,41	54,82	45,18
Isère	20,54	06,54	49,83	50,17	Territoire de Belfort	17,18	08,01	48,59	51,41

Les abstentions sont calculées en pourcentage des électeurs inscrits, les bulletins blancs et nuls en pourcentage des votants, les scores en pourcentage des suffrages exprimés.

表 8 10 万以上の都市における第 2 回投票結果

	Lionel Jospin	Jacques Chirac	abst.	Rappel 1 ^{er} tour		Total droite + FN
				Droite (Chirac, Balladur, de Villiers)	FN	
06. Nice (RPR)	35,28	64,72	28,13	45,75	23,75	69,50
13. Marseille (ex. maj. prés.)	44,74	55,26	26,17	38,37	22,32	60,69
13. Aix-en-Provence (PS)	40,17	59,83	19,80	46,45	16,21	62,66
14. Caen (UDF)	50,53	49,47	23,67	45,14	9,39	54,53
21. Dijon (RPR)	45,50	54,50	21,45	45,24	13,95	59,19
25. Besançon (PS)	50,54	49,46	19,84	40,99	14,01	55
29. Brest (PS)	52,29	47,71	21,84	42,72	9,73	52,45
30. Nîmes (UDF)	45,54	54,46	21,74	39,41	20,01	59,42
31. Toulouse (UDF)	51,78	48,22	25,81	39,53	12,65	52,18
33. Bordeaux (RPR)	44,05	55,95	21,97	48,64	10,31	58,95
34. Montpellier (PS)	48,62	51,38	21,29	39,03	16,60	55,63
35. Rennes (PS)	56,86	43,14	25,27	39,44	7,54	46,98
37. Tours (div. d.)	48,12	51,88	24,87	46,22	12,05	58,27
38. Grenoble (RPR)	52,35	47,65	23,67	38,44	12,29	50,73
42. St-Etienne (UDF)	46,25	53,75	28,52	37,71	22,12	59,83
44. Nantes (PS)	50,19	49,81	25,64	44,43	9,27	53,70
45. Orléans (PS)	44,23	55,77	21,05	47,11	12,47	59,58
49. Angers (div. g.)	47,95	52,05	20,80	48,41	9,61	58,02
51. Reims (RPR)	49,27	50,73	26,09	42,15	15,77	57,92
57. Metz (div. d.)	45,26	54,74	26,18	43,50	21,10	64,60
59. Lille (PS)	53,17	46,83	26,66	39,08	16,06	55,14
63. Clermont-Ferrand (PS)	51,05	48,95	20,97	41,48	11,06	52,54
66. Perpignan (UDF)	42,63	57,37	21,47	41,99	22,83	64,82
67. Strasbourg (PS)	45,92	54,08	25,02	42,84	20,03	62,87
68. Mulhouse (PS)	46,93	53,07	25,80	40,09	26,72	66,81
69. Villeurbanne (PS)	49,43	50,57	23,80	36,25	19,76	56,01
69. Lyon (div. d.)	40,67	59,33	23,58	46,59	15,98	62,57
72. Le Mans (div. g.)	54,69	45,31	23,83	41,64	10,39	52,03
76. Rouen (UDF)	47,98	52,02	23,02	43,58	13,73	57,31
76. Le Havre (PC)	54,62	45,38	27,78	34,52	19,17	53,69
80. Amiens (UDF)	52,08	47,92	22,58	40,02	16,47	56,49
83. Toulon (UDF)	38,46	61,54	24,87	44,45	23,98	68,43
89. Limoges (PS)	51,49	48,51	17,82	42,92	8,64	51,56
92. Boulogne-Billancourt (RPR)	31,49	68,51	20,24	59,80	9,48	69,28

出典：ルモンド大統領選挙特集号 124 頁